

日本物理学会領域 2 役員会議 議事録案

日時: 2020 年 03 月 17 日 (火) 13:00-15:00

TV 会議 (ZOOM)

司会: 領域 2 代表 藤田、金子、大舘、山田、佐々木、高橋、佐野、小林、本島、沼田、白石、書記: 森

事前配布資料: 日本物理学会領域 2 役員会(領域 2 役員会 - TV 会議_2020_03_17_v2.pptx)

報告・議論事項

- 1) 2020 年 4 月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について
- 3) 2019 年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞 (第 14 回 (2020 年)) に関する報告
- 5) 米沢富美子記念賞の募集と審査について
- 6) 年次大会の現地開催中止への対応と 2020 年秋季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 7) 領域委員会報告
- 8) 講演件数の推移
- 9) 2021 年秋季大会の AAPPS-DPP 2021 との共催の可能性について

報告・議事内容

- 1) 2020 年 4 月からの役員体制・役割分担

下記体制を承認した。

領域代表	金子 俊郎 (東北大学)
領域副代表	稲垣 滋 (九州大学)
領域前代表	藤田 隆明 (名古屋大学)

運営委員(佐々木、高橋、山田、小林、佐野、沼田)、役員(大舘、白石、森)、の役割詳細は、パワポ資料 3 ページの右表を参照のこと。

4 月を待たずに稲垣さんはメーリングリストに入ってもらってもよいのではないかと、大舘さんからご本人の意向を確認する。

- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について

2020 年 10 月からの新領域役員

以下 3 名を承認。プラズマメーリングリスト(以下プラズマ ML)で意見を伺う。

次期領域役員 相羽 信行さん (量研機構那珂核融合研究所) 白石さん 後任

次期領域役員 本島 巖 さん (核融合研) 大館さん 後任

次期領域役員 福田 祐仁さん (QST 関西光科学研究所) 森 後任

《次々期運営委員候補推薦ページ》 <https://forms.gle/21YcW1WWEvP92CR79>
に記載されている内容(担当分野、氏名、所属、選出の経緯、学会会員番号、e-mail)を、
山田さんに伝える(森、白石、本島さん(ご本人))
上記内容を、物理学会 web ページへ入力(担当：山田さん)

2021 年 4 月からの役員体制

領域代表候補 稲垣 滋さん (九州大学) 承認

領域副代表候補についての役員からの提案があった。金子さんから稲垣さんに伝え、
承諾を得る。必要に応じてメール審議。

3) 2019 年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告

31 名の応募者から、以下 5 名を選出。

- 水谷 亮介 (阪大レーザー)
「高速応答中性子ラジオグラフィ検出器の開発」
- 波場 泰昭 (名大理)
「プラズマ加熱用負イオンビーム位相空間構造に基づくビーム光学評価」
- 大津 貴志 (名大理)
「レーザー核融合における光線追跡法の高速計算法の開発および評価」
- 石樽 一貴 (阪大レーザー)
「界面遷移層によるリヒトマイヤー・メシュコフ不安定性の抑制」
- 松尾 一輝 (阪大レーザー)
「マルチピコ秒ペタワットレーザーの熱拡散加熱による
高エネルギー密度コアの生成」

4) 若手奨励賞 (第 14 回 (2020 年)) に関する報告

仲田 資季 (核融合科学研究所) さん

研究題目：磁場閉じ込めプラズマの乱流・輸送および同位体質量効果に関する研究

西澤 敬之 (マックスプランク・プラズマ物理研究所) さん

研究題目：逆磁場ピンチプラズマにおけるドリフト波乱流に関する研究

現地開催が中止となったため、学会より賞状が送られる。

受賞記念講演の講演資料作成を両者に依頼中。

講演資料は、受領後、領域 2 ウェブページにアップロードする(担当：大館さん)。

- 5) 米沢富美子記念賞の募集と審査について
領域2から、2名を上限として授賞候補者を推薦することができる。
学会への推薦締め切り：昨年は10月末。
募集日程を、若手奨励賞と揃えて、同じ選考委員会に審査を依頼する。
- 6) 年次大会の現地開催中止への対応と2020年秋季大会シンポジウム・招待講演等の提案
若手奨励賞受賞記念講演（仲田氏、西澤氏）
秋大会(熊本大)における授賞式・講演はなしとする。

招待講演1件(アレシオさん)

秋大会(熊大)の企画講演で調整する。

招待講演のダブルカウントとならないように留意する。

シンポジウム2件(稲垣さん提案、福田さん提案)

以下2件、企画講演で調整する。タイトルは調整する。

「プラズマに接する動的な境界 - 非平衡系における界面 -」稲垣さん提案

「宇宙物理の手法を利用した「光速」に迫るレーザー陽子加速への挑戦」福田さん提案

春年次大会(名大)の招待講演とシンポジウムが、秋季大会(熊大)の企画講演として成立するか、学会事務局に確認する(担当：金子さん 1週間程度)。企画講演としての実施が難しい場合は、メール審議とする。

招待講演、企画講演、シンポジウムの流れ(担当 佐々木さん)

メールで提案募集(領域2 締め切り 4/15)

4/20の週 提案内容をプラズマ ML メール展開し、コメント及び承認を得る。

4/27 シンポジウム提案者に連絡

- 7) 領域委員会報告

資料11ページをもとに報告。

招待講演、シンポジウムは、提案内容の学術的な価値について質問がなされた。

提案書に参考文献が列挙されているとよい。

シンポジウムの時間は原則3.5時間以内とすることが確認された。

[運営委員の人数・任期について]

役員 9 名を全員運営委員とし、3 年任期、10 月開始で統一するのがもっとも望ましい。
この方法で学会運営に差し支えないか、学会事務局に伺う(担当：金子さん)

[役員負担(学生優秀発表賞審査の合理化)]

審査の合理化について議論した。審査員を学会参加者に求めると、その調整に労力を要する。議論の結果、従来どおり、役員(領域運営委員)とセッション座長が審査員を兼ねる方法で進めるとなった。

ただし、審査員による評点のばらつきが見られるので、審査の採点方法、審査結果の可視化(評点の分布)を検討する(担当：白石さん中心)。

[シンポジウム講演等の英語化]

3 月の各領域のインフォーマルミーティング(領域運営会議)で意見を聴取することになっていた。

一般講演の英語セッションを設けてはどうか(応物で実績あり)。

秋の領域 2 インフォーマルミーティング等で引き続き議論する。

[大会改革]

大会使用部屋の有効活用が求められている。領域 2 は今後も 2 会場が基本と思われる。

8) 講演件数の推移

139 件の申込み(春としては過去 10 年で最低)

秋の申し込み推移について調査結果の紹介(金子さん)

秋は、磁場閉じ込めの申し込みが春と比べて、10 件程度少ない。内訳を調べると、NIFS と QST からの申し込みが少なかった。

考えられる要因：

NIFS は、実験シリーズとの兼ね合いがあるのではないか。

QST はトカマク装置が停止中である影響、他学会 (IAEA 等) の影響があるのではないか。

両拠点へ、秋季大会への積極的な申し込みを依頼する。

9) 2021 年秋季大会の AAPPS-DPP 2021 との共催の可能性について

AAPPS-DPP2021 は日本で開催予定。福岡で 2021 年 9 月 26 日(日)～10 月 1 日(金)開催が有力。秋季大会 (9 月 20 日(月)～ 9 月 23 日(木)、東工大) とほぼ同じ時期となり、参加者が分散することが懸念される。

11 月 30 日に金子 (2020 年度代表)、稲垣 (同副代表)、藤田 (2019 年度代表) の 3

者で会談。AAPPS-DPP のプログラム編成の仕方が物理学会のそれとは大きく異なることなどを理由に共催は見送りたいとの意見。開催期間が近いので、外国からの AAPPS-DPP 参加者による（を含む）招待講演・シンポジウムを企画することは考えられる。

2018 秋 AAPPS-DPP 金沢の日本人講演申し込みリストと 2018 年秋季大会の講演申し込みリストを照らし合わせ、申し込みに対する隣接開催の影響を定量的に把握する。
(担当：藤田さん、金子さん)

最終決定は、秋季大会(熊本)の領域会議で行う。

事前に、プラズマ ML で意見を集約する(締め切り 5 月連休明け)。[担当：藤田さん]

以上